

2015年度も常勤は庄野1名であった。済生会熊本病院心臓血管外科医師が2回/月、外来で応援を行った。担当した入院患者数は前年度の218名から248名と増加した。高齢者の増加は相変わらずで、平均年齢は79.9歳（中央値82歳）になっている。心不全（再入院を含む）の増加もあるが、脳血管疾患38例、呼吸器疾患18例、整形外科疾患（合併する内科系疾患のため）も15例であった。

入院の内訳は、例年と同様、心不全が最も多く53例であった。心不全例の年齢は、平均82歳であった。死亡は6例だった。心不全の原因疾患を見ると。虚血性心疾患が20例と最も多く、心筋症6例、弁膜症14例、高血圧4例、心房細動6例であった。

急性冠症候群や安定狭心症の多くは熊本病院へ紹介しているため少ないが、入院では心筋梗塞7例、狭心症10例であった。

その他、不整脈10例、大動脈疾患6例、閉塞性動脈硬化症6例、深部静脈血栓症3例、弁膜症では高齢の大動脈弁狭窄症が10例、三尖弁逆流に伴う心不全が6例と目立った。

急性心筋梗塞は21例（CPAOA8例を除く）であり、うち13例を熊本病院に搬送して急性期治療を行った。急性大動脈解離は6例（CPA1例）であった。急性心不全はほとんどの症例は当院で入院治療を行った。（表1）

（例）

急性心筋梗塞（転送を含む）	21
急性大動脈解離（CPAを含む）	6
心不全	53
不整脈	8
狭心症、OMI	14
血管疾患	15
弁膜症	19

（表1）

一方、外来診療では、生活習慣病を中心に患者さんが増加し、毎月約900～1000人の患者の診療を行った。中でも糖尿病の症例が増加しており、担当している患者さんの25%程度になっている。

外来でのペースメーカーチェックも行っているが、60数名の患者さんが定期的に来院されている。

循環器関連の検査はほぼ例年並みであった。（表2）

（件）

	2014年度	2015年度
心エコー	1,676	1531
負荷エコー	16	16
トレッドミル	62	50
ホルター	150	90
頸部血管エコー	241	198
下肢血管エコー	247	225
ABI	273	222
心臓CT	22	34
血管CT, MRI	99	102

（表2）

